

アフリカ農民はジリ貧か

—ガーナ・アシャンティ州の事例より—

近畿大学博後1年 中島 邦公

近畿大学 若月 利之

ガーナ土壌研究所 モロ M. ブリ

Are African farmers worse for wear?

—Cases in Ashanti Region, Ghana

NAKASHIMA Kunitada, Kinki University

WAKATSUKI Toshiyuki, Kinki University

Moro M. BURI, Soil Research Institute, Ghana

西アフリカの農業は久しく停滞しているといわれる。これは「伝統的」かつ「非効率な」農業による低生産性が原因とされる。しかし、ガーナ・アシャンティ州サウスアノ地区の調査では、農業で成功している農民も存在する。本発表では彼ら「篤農家」の営農の多様性を報告し、彼らの農業経営戦略の共通点を提示する。

調査地はガーナ第二の都市クマシから北北西に 40km に位置する農村部であり、現金収入を求め都市へ流出する人間も多く、彼らの多くは農業を、「食べるための作業」、「仕事が見つかるまでのつなぎ」と認識している。178 件の調査から彼らの営農の一端が明らかになった。彼らはまず混作畑で食料を自給しつつ、現金収入を得るために様々な活動をする。収入に余裕があれば、将来のために混作畑にカカオやオイルパームなどの換金作物を導入する。農混作畑の一部に樹種作物が植えられ、徐々に換金作物であるココア林、オイルパーム林に移行する。このように自給的な農業と農業外での現金収入の機会を得るために自らの資源を投下するのが、一般的な農民の営農パターンである（表1）。

一方、これとは反対に、農業に集中して資源を投資する篤農家がいる。篤農家は広大な面積を耕作している点で共通する。しかし、各篤農家の営農は多様である。長年のカカオ栽培を行ってのち、年老いてからは管理を他人に任せ、カカオの収穫から一定の割合を受け取る伝統的なカカオ農家や、水田稲作や野菜栽培、薬用植物といった新しい作物や技術を導入している事例が確認された。また畜産や淡水養殖などを組み合わせた農業を営んでいる例もあった。（表2）

このように篤農家の営農は多様であるが、土地の獲得、労働力の確保、収益の高い作物の選択など、目指すところは同じであり、各々の経済状況や土地所有、家族や親族の数などの条件にあった戦略をとっている。

表1. 調査地域農民 178 件の営農の様子

混作畑を一筆以上もつ農民	混作畑にカカオ・オイルパームなど樹種作物を植えている農民	混作畑に樹種作物を植えており、そこから現金収入を得る農民	独立したカカオ林・オイルパーム林をもつ農民
122 件	53 件	32 件	21 件

表2. 篤農家の営農、および土地と労働力の確保手段

	栽培作物	淡水魚・家畜	土地確保手段	労働力確保手段
AD 村 T 氏	水田、ココア、果樹	機械掘り養殖池、牛	父祖より相続	機械力導入
B2 村元伝統的首長	ココア、混作畑	なし	ココア林開拓	小作人
B2 村 N 氏	ココア、野菜、果樹、混作畑	手掘り養殖池	婚姻による妻の家の耕作権	多婚による家族労働力確保
B1 村移入民集団	野菜、水田、メイズ、混作畑	移入一世世代の牛の管理（用益権無）	農業プロジェクトに参加	集団作業
AD 村移入民 I 氏	陸稲、薬用作物、混作畑	この地区の移入民は家畜飼育を認められていない	耕作能力以上の土地を継続的に賃借、耕作権確保	家族労働